宮城いきいき便り

自分たちも楽しみたい

寄稿　笑顔の会代表　安原幸彦さん（69）

亘理町の震災仮設住宅入居者の前で、楽しい芸を披露するメンバー

笑顔（ほほえみ）の会は、宮城いきいき学園仙南校の第20期生から第22期生が中心となり、2014年に発足した。

学園で学んだ地域リーダー教育を生かし、地域（仙台から丸森にかけて）の高齢者施設などを訪れ、会員の趣味や趣向に合ったボランティア活動を行い、福祉向上に貢献しようというのが目的。

笑顔の会は愛称で、正式には「仙南いきいき傾聴の会」。常に笑顔で自分たちも楽しみながら活動していきたい、というメンバーの声を反映し、愛称を作った。

メンバーの多くは「ボランティア活動も、自分たちが楽しまないと長続きしない」と考えていた。

メンバーを引っ張る代表の安原さん

発足当初はボランティア活動のレベルアップを図るため、笑顔塾、マジック研修、折り紙研修、さらには各種福祉活動見学やボランティア実習などにも積極的に参加した。

現在は白石市の介護老人保健施設「清風」で、定期的にボランティア活動を実施。ほかに仙南地域各市町の社会福祉協議会からの依頼を受け、福祉施設のサークル活動の応援、デイサービスや授産施設での支援サービス、夏祭りやクリスマス会、敬老会などへの訪問ボランティアも随時行っている。

私たちの活動を、施設の利用者の方々が楽しみに待ってくれている。帰りには握手をしながら「ありがとう」、カレンダーを見ながら「今度はいつ来るの」といった言葉が毎回聞かれるようになった。私たちもうれしくなり、少しずつ活動が育っていることを実感する。

笑顔の会では今後、福祉ボランティアに加え、健康や文化サークルなどにも活躍の場を広げることで、高齢化などに対応する地域福祉向上の一助につなげたいと考えている。そのためには組織の新陳代謝も必要で、特にいきいき学園生の新規加入を期待したい。

学園生活がスタート！

宮城いきいき学園入学式

新入生178人にとって学園生活の第一歩となった入学式

高齢者の生きがいと健康づくりを支援する「宮城いきいき学園」の入学式が4月、宮城県庁講堂で開かれた。本年度の新入生は仙南、大崎、石巻、気仙沼・本吉、登米・栗原の各校合わせて178人。式には入学を歓迎する在校生らを含め、約400人が出席した。

学園長でもある宮城県社会福祉協議会の鈴木隆一会長が「これから同じ学園の仲間として、地域貢献活動に関わる学習や実習、委員会活動、クラブ活動、文化祭などの行事を通して、共に人生の新たなページを創ってほしい」と式辞を述べた。

来賓を代表し、村井嘉浩知事が「これから学ばれることを参考に、それぞれの地域で自らの知識や経験などを生かして積極的にご活躍いただき『支え合う地域社会づくり』の一翼を担っていただきたい」と激励した。

入学生代表として決意を語る気仙沼・本吉校の鈴木さん（左）

入学生代表として気仙沼・本吉校の鈴木陽一さんが、米国の格言の一節「年を重ねただけで人は老いない。理想を失うとき初めて老いが来る」を引用し、「旺盛な好奇心こそ若さの秘訣（ひけつ）。学園生活でいろいろなことに挑戦したい」と力強く抱負を語った。

本年度の新入生の最高齢は登米・栗原校の82歳の男性。夫婦そろっての入学は2組あった。また、東日本大震災で被災しながらも、今は復興に向けて毎日を元気に過ごす3人が入学した。

式の終了後には、宮城教育大特任教授の野澤令照（よしてる）さんによる「シニア世代は宝の山」と題した記念講演があった。入学式を皮切りに、本年度の学園生活がスタートした。